

---

# **仮面ライダーディケイド×スイートプリキュア 新たな出会いと戦い！**

R × P

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

仮面ライダーデイケイド×スイートプリキュア 新たな出会いと

戦い！

### 【Zコード】

N3496W

### 【作者名】

RXP

### 【あらすじ】

かつて世界の破壊者と呼ばれたデイケイドが何とスイートプリキュアの世界に入ってきた！？ 新たな戦いが今幕を上げる！

## プリキュア達の会話と始まり（前書き）

タイトルの変更しました。 内容は一緒です

## プリキュア達の会話と始まり

「ここは加音町、いつもの用に学校に向かい話をしながら、三人の  
プリキュアのメンバー  
中学生が歩いていた。

響 「ねえ、奏、エレン今週の日曜日二人とも予定空いているかな  
？」

奏「うん、その日はちょうどお店が定休日だから空いてるわ」

エレン「私も特に用事は無いけど急にどうしたの響？」

響「実はね、私昨日夕飯の買い物していくね、福引きしたの、そう  
したら～ 何と1等賞でオーケストラのチケット三枚ゲットしたの  
よ～」

奏「それ本当！？すごいじゃない響～」

エレン「よくわからないけど、すごい響、とにかくオーケストラ  
つて何？」

エレンは人間の姿しているがメイジヤーランドから来た妖精なので、  
普通なら知っている事もあまりよく知らないのだ。

奏「簡単に言うと沢山の楽器で演奏して音楽を楽しむ事よ」

響「しかも今回はスペシャルゲストも来るらしいよ～何か凄い腕は  
良いらしいんだけど少し無愛想何だつて。」

エレン「へえ～どんな人何だら～何か話し聞いてただけでワクワク  
しちゃう！」

こうして三人のプリキュアはワクワクしながらの話題に盛り上が  
っていた。

コレが新たな戦いの幕明けになるとは思わず…

## プリキュア達の会話と始まり（後書き）

いかがでしたか？ エディケイド出来てない？ いえいえ次回から  
出てきますよ。それでは

## 訪れる世界の破壊者？

「」は光写真館 韶達が話してた頃に門矢士と旅をしている仲間達がこの世界に到着したのだ。

士「どうやら新しい世界に到着したらしいな。」

夏美「本当にですね。いつたいどんな世界なんでしょう。」

ユウスケ「まずは色々調べてみて…」

海東「その必要は無い！ある程度なら僕は知っている」

士「ほう～さすが海東だな！それで「」はどんな世界なんだ？」

海東「スイートプリキュアの世界さ！」

全員「プリキュア！？なん【ですか】だそれ？」

海東「簡単に言えば普通の女子中学生が変身して戦う戦士の事さ、まあ僕達仮面ライダーとよく似ている存在だね。」「

士「なるほどな、だいたいわかった！」ユウスケ【もうわかったのか！】

士「とにかくそいつらを探してだして聞いてみようぜー。」

夏美「「そうですね士君」

ユウスケ「まあそうだな～どこから探そうか？」

海東「とりあえず一回外に出て見よう。答えは外にあるかもしけない

」

こつして士達、全員外に出てみたのだが…

夏美「あれ今回も士君服が代わってますね。」

士はキバの世界に行つた時と同じくヴァイオリンリストの服装に変わつたのだ。

士「俺だけじゃなくお前らの服装も変わつたぞ！」

何と海東以外のメンバーも服装が変わつたのだ。

ユウスケ 「俺は士の何かのマネージャーだな。」

夏美 「私は士君のヘアメイク担当みたいですね。」 海東 士 そつそく悪いけど、僕は単独行動させてもいい。色々とやることがあるから

士 どうせお宝探しでもするんだろ！ 勝手しら

海東 まあ、そんな所かな～じゃあまた後で 変身！ 「カメンラ イドー・ディエンドー・アタックライド インビジブル」

ユウスケ アイツまた勝手に！

夏美 士君良いんですか？

士 良いんだ 好きにさせてやれ、行くぞ！

こうして、士達の新たな世界での旅が始まったのだった

## ライダー＆プリキュア初めて出会つ戦士達！

次の日曜日、響はなんと寝坊してしまったのだ。

響「ヤツバイ遅刻だ」ハミィ何で起こしてくれなかつたの？」

ハミィ「ごめんニヤ」ハミィもグッスリ眠つてしまつてたのニヤ

」

響「とにかくダッシュで会場行かなきゃ キヤ！」走つてた響は誰かとぶつかる。

？「いつてえーな！どこ観て走つてるんだ！あぶねえだろ」

響「ごめんなさい あたし急いでたから、本当にごめんなさい。」

？「まあ急いでいるんだつたら仕方ないな。早く行けよ！」男は

響を立たせながら言つた

響「ありがとうございます！失礼しますね。」

響はダッシュで会場に行つた。

士「つたくちゃんと前見て走れよな。ヤバい！俺も時間に遅れている急がないとコウスケに怒られるな！」

一方奏とエレンはすでに約束の場所に来ていた。奏「響遅いな」もう後10分で始まるのに」

エレン「寝坊でもしたんじやない？ あつ響が来たよ」「エレンが手をふる。

響「ハアハア、2人とも本当にごめんね！実は寝坊しちゃつて人にぶつかつて」

奏「もういいから早く行こう！始まるよ」

三人は会場に入つて行つたその後に、マイナーランドの刺客トリオ・ザ・マイナーが姿を表して不気味な笑顔で言つた。

バスドラ「プリキュアどもせいぜい楽しむがいい！不幸な音楽をな！いですよ！ガイアネガトーン！」

トリオが叫びながら音符とガイアメモリを会場内にあつたシンバル

に投げつけた！そのころ、先に会場の控え室の中にいた士は うん？と何かの気配を感じていた！

ユウスケ「士？どうしたんだ？」

士「いや何でもない氣のせいだ」と言つたその時！！？、突然会場から爆発音がした！！士達は一斉に走り出し会場に行くとそこには、観た事もない怪物が暴れていた！

士「ちつ面倒なヤツが現れたな、ユウスケ！お前は逃げ遅れた人を助ける！俺はコイツを何とかする！」

ユウスケが無言で頷くと素早くカードを構え変身する！

士「変身！」【カメンライド ディケイド】

ディケイド「さあ、いくぜ！」

？「待つてあたし達も！」ディケイドが振り返ると、そこには、響達三人が立っていた！

響「またネガトーンね！でも隣いる変な仮面の人誰だらつ？」

奏「響！今はネガトーンが先よ！」

エレン「早く行きましょう」

響達「せつかく皆が楽しみにしていたオーケストラを台無にして！絶対に許さない！」

三人「レツツープレイ！プリキュア・モジュレーション！」

メロディー「爪弾くは荒ぶる調べ！キュアメロディ！」

リズム「爪弾くはたおやかな調べ！キュアリズム！」

ビート「爪弾くは魂の調べ！キュアビート！」

届け！3人の組曲！スイートプリキュア！

三人が名乗りあげポーズを決める！

ディケイド「あいつらがこの世界の戦士プリキュアか…うん？真ん中ヤツはさつき俺とぶつかった子か？しかも名前は響って言うのか！？」

！？」

ディケイドはかつて共に戦つた仲間の1人ヒビキこと、仮面ライダ

ー響鬼を思い出しながら言った。

ディケイド「やれやれまた面倒な事になりそうだ。」

こうして運命的な出会いをした2人 はたしてこの戦いの行方は！

?  
⋮ 続く！

ティケイドーハリキュア！勘違いでバトル？（前書き）

修正と戦闘パート変えました。ではどうぞ！

## ディケイドvsプリキュア！勘違いでバトル？

プリキュア達「ハアア～」

三人はシンバルネガトーンに同時パンチを叩き込む！しかし！！ガ  
チーン

三人「イツタ～イ」

何とプリキュア達のパンチは全く効かず三人を跳ね返してしまった  
のだ。

メロディー「もうスッゴく痛いじゃない！」

リズム「アイツ体堅すぎ！何て体してるのよ！」

ビート「こうなつたらキックよ！」

三人は体制を立て直すと今度はキックを放つのが！？ガチーン！  
？再び跳ね返されられ、三人は悲鳴を上げながら壁に激突する。  
ディケイド「仕方ないな手を貸すぜ！！」【アタックライド・スラ  
ッシュ！】

ディケイドのライドブッカーが瞬時に剣に変形してネガトーンに切  
りかかる！！しかし！！

ガキーン！何とディケイドの剣ですらネガトーンの体に傷一つ付け  
られなかつたのだ！

ディケイド「何！クソ～なんて堅い体なんだ！なら、ブラストはどうだ！！」

【アタックライド・ブラスト！】

今度はライドブッカーを銃に変形させて攻撃する。だが！やはりネ  
ガトーンは無傷だった。

ディケイド「バカなコイツも効かないのか！？」

次の瞬間ディケイドはネガトーンにぶつ飛ばされる！ディケイド「  
グワ～！？クソ～体が堅いだけじゃなくパワーも高いな。」

メロディー「こうなつたら私たちの必殺技で！行くよ、リズム！ビ  
ート！」

リズム「オッケ～」ビート「わかつたわ！」

壁から脱出したメロディー達が必殺技の体制に入る。

メロディー「奏でましょ～。奇跡のメロディ～ミラクルベルティエ  
！ おいでミリ～」

リズム「刻みましょ～。大いなるリズム！ ファンタスティックベル  
ティエ！ おいでファリ～！」

ビート「吹き鳴らせ愛の魂！ ラブギターロッヂ！ おいでソリ～」  
三人は同時に必殺技を繰り出す

メロディー&amp;リズム「プリキュア～ミュージッククロンド～」  
ビート「プリキュア！ ハートフルビートロック！」

三人のリングがネガトーンに命中しネガトーンを浄化し始めるのだが！ シンバル（ここから名前変わります）は何と三人のリングを破壊し脱出してしまったのだ！？

プリキュア達「ウソ！ 浄化に失敗した？ どうして？」

ディケイド「どうやらお前らの技だけでは浄化出来ないらしいな。  
ディケイドは立ち上がりながらそう言つとプリキュアの隣に立つ。

メロディー「じゃあどうすればいいの？ 仮面のおじさん」

何とメロディーは勝手にディケイドのあだ名を付けていた！

ディケイド「俺は仮面のおじさんじゃない！ 通りすがりの仮面ライ  
ダーだ！！ 覚えておけ！！」

リズム「仮面ライダー？」

ビート「何それ？」

のひと言にディケイドは首をやれやれと振り教える

ディケイド「俺は仮面ライダー！ ディケイド！ 色々な世界を回つて…」  
と当然シンバルが待つてる訳が無く攻撃を再開する。

ディケイド「ちつ話しさは後だ、今はコイツを…！」

攻撃を避けながら、

リズム「だけど、どうすればいいの？ 普通の攻撃じゃ全く傷一つ付  
かないし？」

ビート「それにこのネガトーンいつも以上に強いわ…きっと何か特

別な力が混じつているのよ」

と言つた直後その通りだとトリオ・ザ・マイナーが現れる

トリオ「我々はメフィスト様から新たな力を与えられたのだ！それを使って新たなネガトーンいや、ガイアネガトーンを生み出したのだハハハッハ！」

メロディー「ガイアネガトーン？ あんた達一体何の力を使ってネガトーンを強化したの！？」

トリオ「特別に教えてやろう。それはガイアメモリとか言うアイテムだ！！」

ブリキュア達「ガイアメモリ！？ 何よそれ！！」

ディケイド「俺が教えてやる。ガイアメモリってのは、地球の中にあるあらゆる記憶を埋め込んだHSBメモリのような形をした道具の事だ。もつとも本来この世界には無いはずだが……なぜ貴様らが持つている！！」

トリオ「知るか！ 我々はメフィスト様から譲り受けただけだ。さあブリキュア共よ覚悟しろ！！」

シンバルが近づいくる。

メロディー「くつ一体どうすれば！？」 リズム「何か方法があるばずよ！ 諦めないで！！

ビート「せめてそのガイアメモリの位置が分かればいいのに…」とビートがつぶやく。

ディケイド「正確な位置か！ よし、ここは俺に任せろ…ちゅうどいい！ 新しいカード使つてみるか！？」

ディケイドはライドブッカーから一枚のカード取り出しベルトのバツクルに装填する。

【アタックライド・スキャン！】

すると「ディケイドの目が光を出してシンバルの全身をスキャンする！」

ディケイド「見つけたぞ！！ ヤツの頭の中だ！！」

メロディー達「すごい！ けど、どうやって見つけたの？」

ディケイド「俺の新しい力 スキャンのカードを使ったのさ…さて

お前のメモリを破壊する方法がだいたいわかった！」

メロディー達（だいたいわかつたつてそんな大ざっぱな事でいいの  
～？）

ディケイド「よしーそっちが洋楽器なら」」ちは和楽器で勝負だ！  
！変身！」

### 【カメンライド・ヒビキ】

ディケイドは無視しながらD響鬼にカメンライドした。  
メロディー「鬼みたいな仮面ライダーになっちゃた～」「  
驚く三人！

D響鬼「さあ一気に決めるぜ！」

### 【ファイルアタックライド・！ヒ・ヒ・ヒ・ヒビキー】

いつの間にか音撃棒を取り出しシンバルの頭に飛び乗りその上に大きな太鼓の紋章みたいな物出してそれを叩き出す！

D響鬼「俺がこの技で中のメモリを破壊するお前らはその後にもう一度浄化を！！」

メロディー達「わかつたわ」

D響鬼「いくぜ！音撃打 爆裂強打の型！！」

D響鬼は響鬼の最強技の1つ音撃打 爆裂強打の型を炸裂させる！  
ネガトーン！？悲鳴を上げた瞬間に頭の中があつたガイアメモリが排出された！

D響鬼「今だ！！」

メロディー&amp;リズム「プリキュア！ミュージックロンド！  
ビート・ブリキュア！ハートフルビートロック！」

三人のリングがシンバルに命中する

メロディー達「三拍子！ 1・2・3！ フィナーレ！」今度は見事に浄化に成功しシンバルは元のシンバルに戻る。するとカバンの中に隠れていたハミイが出て来て音符を浄化する。

ハミイ「やつたニヤ 大成功ニヤ」

D響鬼「猫が喋った～」 唾然としながらD響鬼は元のディケイドに戻る。

トリオ「クツソ～覚えて居るよブリキュア共に仮面ライター！」

ディケイド「仮面ライダーだ間違えるな！」

トリオ・ザ・マイナーは去つて行く。

ディケイド「さて俺の役目は終わったな。しかし何故だ？メモリが破壊されてない？どういう事なんだ？」と考えていたら、メロディー「さて…さつきの話しまだ途中だったからちやんと話して！」

ハミィ「待つニヤメロディーソイツはとても危険なヤツだニヤ～」突然ハミィが割り込んで来た。

リズム「どうして危ないのハミィ？この人私たちを助けてくれたんだよ？」

ハミィ「昔アフロディテ様がハミィだけに教えてくれた事ニヤ～ソイツは世界の破壊者ディケイドだニヤ～

2人「なんですって…！」

ディケイド「それは昔の話しだ！今は違う今の俺は…」

ディケイドが話し始める前にビートが攻撃を仕掛け始めたのだ！？

ディケイド「いきなり何するんだ。あぶねえだろ…！」

メロディー「ビート待つて！話を聞いてあげようよ！」

ビート「メロディー実は私もメフィストから聞いた事があるの…！今ハミィの話しで思い出したわ。確かディケイドは訪れた世界を最終的には破壊するつて言つてたの…！」

メロディーとリズム「そんなそれ本当なの…！」

ディケイド「だから違うつて言つてているだろう…！俺はもう世界の破壊者じゃない。ただ様々な世界を旅をしているだけだ。」

ビート「それなら何か証拠でも出して…！」

構えるビート！

ディケイド「証拠？そんなものすぐに用意出来るか…！」

ビート「証拠が無いなら容赦しないわよ！」

するどビートはまたディケイドに攻撃をして来る！

ディケイド「全く何でこうなるんだ！仕方ない！変身！」

【カメンライド・オーズ！】

【タカ・トラ・バッタ！タ・ト・バ！タトバタ・ト・バ】  
独特的の歌と共にディケイドはDオーズにカメンライドする！  
メロディー「また姿が変わったわ！」

リズム「今度は三色？しかも今変な歌が？」

Dオーズ「歌は気にするな！」

リズムに向かって言うDオーズ！

ビート「姿を変えても同じよ！ビートソニック！」  
ビートはビートソニックをDオーズに放つ

Dオーズ「どうかな？このスピードならかわせるぜー！」  
ディケイドはラトラーダーのカードを装填する！

ディケイド「変身！」

【フォームライド・オーズ！ラトラーター！】

【ラタラタ～ ラトラ～タ～】

Dオーズはラトラーダーコンボに変身する！

ビート「色が同じ色に！」

Dオーズはラトラーダーの力で余裕ビートソニックをかわして跳び  
ビートに連続蹴りを浴びせる！

ビート「ビートソニックが当たらない？キャアアア！」

2人「ビート！」

だがビートは素早く体制を元に戻す！

ビート「やるわね！」

Dオーズ「次はコイツだな！」

【フォームライド・オーズ！ガタキリバ！】

【ガーッタガタガタキリバ！ガタキリバ！】

Dオーズはガタキリバに変身する！

ビート「メロディー！リズム！手伝って！私一人じゃあ倒せないわ  
！」

2人「わかったわ！」

2人は迷いを捨ててDオーズと対人する！

D オーツ「なら俺も増やすか！」

三人「？」

するとD オーツはガタキリバの分身を49人作つて数を増やす！

メロディー「うそ～！」

リズム「多すぎ！」

ビート「なによコレ！」

構える三人

3人「はあ～～～！」

D オーツ達「はあ！」

互いに激しい格闘戦で戦い離れる

D オーツ「やるな！さすがは戦士だけにあつて動きもいい！（まさか分身が全滅するなんてな！）」

メロディー「はああ！あなたもやるじやない！（しんどかった）リズム「でも分身は・・・全部やつつけたわよ！（49人つて鬼ね！」

ビート「さあ降参しなさい！（この人只者じゃない」

D オーツ「降参？まだ俺はいけるぜ！変身」

【フォームライド・オーツ・サゴーゾ】

【サゴーゾ！サゴーゾ！】

今度はサゴーゾコンボに変身する！

ビート「また姿を！」

D オーツ「こいつは効くぜ！」

するとD オーツはいきなりドラミングを始める！

D オーツ「うおおおおおおお！」

メロディー「えつ？なに？きやあ！」

突然三人の周りが重力が無くなり三人共浮かんでしまったのだ！

メロディー「どうなつているの～～？」

リズム「まさか！その姿つて重力を操るの！」

D オーツ「まあな！はあ！」

ゴリバコーンを発射してプリキュアにダメージを与える！

三人「きやあああ！」

倒れる三人！

メロディー「もう！あつたまたわ！」

三人は再びベルティエとソウルロッドを取り出して必殺技を繰り出す！」

メロディー & リズム「プリキュア！ミュージックロンド！」  
ビート「プリキュア！ハートフルビートロック！」

Dオーブ「ならこっちも行くぜ！」

サゴーヴからタトバに戻り黄色のカードを入れる！

【ファイナルアタックライド・オッオッオッオーズ】

Dオーブはそのままジャンプして出現した三色の三つのリング潜り抜けタトバキックを繰り出して互いに激突する！

Dオーブ「ぐわあああ！」

三人「きやあああ！」

Dオーブはディケイドに戻りそして全員立ち上がる！  
すると

ユウスケ「ストップ！ストップ！」

ユウスケが間に入る！

メロディー「あなた誰？」

ディケイド「何だユウスケ？邪魔するなよ！」

ユウスケ「とりあえずみんな辞めてくれ！変身解こうな？」

ユウスケは笑顔で振り向いてプリキュアにも言つ

ユウスケ「プリキュアのみんな誤解させて済まない！…とりあえず話  
しあいたいんだ！いいかな？」

しぶしぶ頷きお互いに変身を解いた瞬間に響は大きな声で叫んだ！

響「あ、あなたさつき私とぶつかったお兄さんだったんだ！」

士「お前気づいてなかつたのか！？まあいい。とりあえず自己紹介  
だ。俺は門矢士だ！よろしくな。

ユウスケ「俺は小野寺ユウスケ！よろしくね！」

響「あたしは北条響よ。」

奏「私は南野 奏です。」

エレン「黒川 エレンです。好きな色は～？」

響&amp;奏「エレンスト～プ！！簡単に名前だけでいいから」

ハミィ「ハミィって言うニヤ～さつきは失礼な事言つてごめんニヤ

」

士「別にいい、とりあえず俺が住んでいる家に行くぞ」

こうして全員士達が住んでいて夏美が留守番をしている光写真館に向かうのであった。続く

戦士たちの会話と新たな強敵ー「アーマードベトロマイヤー」(謹書也)

一部を変更しました。  
でせじいわ

## 戦士たちの会話と新たな強敵！その名は「ストロイド」

数分後、ここは光写真館。中では本来は光栄次郎がいるはずのだが、どこかに出かけいるため孫の夏美が留守番をしていたのだ。

夏美「全く留守番のせいで士君のオーケストラに行けませんでした。あつ士君にコウスケお帰りなさい早かつたですね。あれ？ その子達は？」

士「コイツらはこの世界のプリキュア達だ」

夏美「フーンそなんですかって！え～」 いきなり夏美が大きな声をだして驚く！

士「バカ！ いきなり叫ぶな！ ビックリするだろが！？」

ユウスケ「まあまあ士、仕方ないよ。いきなりそんな事言われたら誰でもビックリするぞ？」

響「あの～ 玄関で話をして大丈夫なんですか？」

ハツとして夏美は

夏美「あつそうですね。中にどうぞ。」

こづして全員中に入る。

響「うわ～ 中もスッゴく古いし～ ボロボロだよ！」

奏「響あまり失礼な 言つちゃダメよ。いつ言つのは、古風つて言うの！」

エレン「要するに古いお家つて事ね」

夏美「そうですね。私の家はだいぶ昔から…」

士「おい夏美！ 今は昔話じゃ無くてお互に自己紹介と情報交換が先だろ？… ブス！… アハツハツハツハツ 夏ミカンお前なにしや…！」

ハツハツハ～」

光家秘伝のツボが士に炸裂する！

響達「えつ急に笑い出した？！ いつたいどうしたの？」

ユウスケ「まあまあ気にしないで！ いつもの事だから？」

さらに数分後、やつと士がこれまでの出来事を話し始める。

士「俺達は色々な世界を渡り歩きずっと旅をしているんだ。」

士は話しながらティケイドドライバーとライドブッカーそしてカードを見せながら説明する

士「まあ色々な事もあったな。色々な敵と戦い、時に他の世界のライダー達とも戦つた事もある。最終的には自分を破壊者として受け入れたが今は違う！俺はもう一度とあんな事はしたくないし、これからは純粋に旅を楽しむ事にしたんだ。コイツらとな

ユウスケと夏美が微笑む。

それを聞いて三人とハミィは士が破壊者だと思わなくなつていき、響「そうだったんですね。その話を聞いていたらなんだか士さんに悪い事したなつて！あつ自己紹介遅れました。私は北条 響 こいつちは奏、もう一人はエレンです。

奏「今日は色々ありがとうございました。」

エレン「おかげでネガトーンも倒せたし本当にありがとうございます！」

頭を下げるエレン

士「気にするないつも事だし、もう慣れているからな。」

エレン「え？」

士「他の世界でもよく言われたのさー悪魔だの破壊者つてな。」

エレン「そうなんですか！」

三人は驚きしばらくみんな黙る

士は自分たちの事を話したのでもうとプリキュアについて説明してくれと言づ。

響「じゃあ今度は私たち事を話しますね。」

響達はこれまでの事を話しひきゅーとプリキュアについて説明しながらキュア

モジューとフェアリーとトーンを見せる

士「なるほどな、お前らは要するにマイジャーランドの幸せの楽譜を完成させマイナーランドが不幸の楽譜を完成させない為に音符を集めて戦っているのか！？」

ハミィ「やつニヤ～ やつしないとハミィもセイレンもメイジヤー ランドに帰れないニヤ～」

ユウスケ&amp;夏美「ネネ猫が喋った～」

ハミィ「ハミィは猫じゃないニヤ～ 妖精だニヤ～」

士「お前いつの間に?と言つかお前妖精だったのか!? しかもセイレンってはだれだ!」

エレン「それは私の事です。実は私ハミィの幼なじみで、この姿は私が人間に変身した姿なの!!!」  
ユウスケ「すっげ～! だったら他の変身も見せてよーセイレンちゃん?」

エレン「ごめんなさい今は出来ないわ。変身能力は無くなってしまった。後ね、私の事はエレンって読んでください、ユウスケさん。

」

エレンは少し悲しい笑顔で話す。

ユウスケ「「ごめん! エレンちゃん! 本当にごめんね!」 ユウスケは必至に謝る。

エレン「いいんですわかつてもらえば」

士「これでお互いの事がだいたいわかつたな。それともう一つ実は皆に見てもらいたい物があるんだが。

」 士は先ほどの戦いで回収したガイアメモリを取り出す。

響「それってさつきのネガトーンの中に入つてたヤツよねー?」  
奏「どういう事? 破壊したはずじゃ～?」

エレン「しかも何か書いてある。英語かな?」

メモリには英語でマツスルつて書かれていた。

士「このメモリは本来ならこの世界には無いもので後は奏が言つてた通り破壊されていたはずだった。強い衝撃があれば破壊出来たはずなんだがどういう訳か排出されただけだったんだ。」

全員が黙り込み沈黙する

? 「その答えは僕が教えるよ!」 全員が振り返るとそこには海東が

立っていた。

士「海東！お宝探しをしていたんじゃなかつたのか！？」海東「いや！僕の本当の目的はそれさ。君が持っているそのメモリは僕が無くしたメモリだから、返してもらうよー！」

と言つと素早く士からメモリを奪つ。

士「お前のメモリだと？どういう事だ？」

海東「教えてあげよう。あれはちょうど、僕が1人で色々な世界を回つていた時だ」そう言つて旅の話とWの世界について話す。

海東「僕はその頃ちょうどWの世界についてある組織から三本の新型ガイアメモリをいただいたのさ」

響と奏「それって明らかに泥棒じやない。」

と怒つた二人が変身しようとするのをエレンが必死で止める。

エレン「待つて二人ともストップ！話を聞いてからー」

二人「止めないでエレン！」士「うるさいな～夏美あれをやれ！」

夏美「えつでもあれは～」

士「いいからやれ！うるさいから話しも聞けやしない。」

夏美は仕方なく、響と奏に笑いのツボを突きます。

【ドス！ドス！】

二人「！～えつアハハハ何これアハハハ！？」

二人は笑い出した。」

エレン「2人とも大丈夫？どうしたの？」

士「心配するな時期に治まる！さて、それじゃあ海東話しの続きをだ。

海東「いいのかい？じゃあいくよ。僕が盗み出したメモリはガイアメモリT3と言つて名前はマッスル、ソルジャーそしてデストロイだ。」

士「マッスルはわかるが他の一本は相当ヤバそうだな。他のメモリはどうしたんだ？まさか無くしたんじゃないよな！」海東「そうじゃない実はマッスルメモリとデストロイメモリは士の所に戻る途中に謎の男に奪われてね。唯一残つたのがソルジャーメモリだつ

たんだ。」そう言つとメモリを見せる。

海東「しかもこれらのメモリは従来型と違つて破壊出来ないし、物体や道具などをドーパントに変化させる事が出来るみたいだね！

まあ今は実験段階のプロトタイプだけね。」

士「プロトタイプって事はまだ未完成品つて事か！だつたら何故あのガイアネガトーンは凄まじいパワーが出せたんだ？」

海東「おそらくあの怪物の中に入つた時にドーパント以上に過剰適合反応が発生したんじゃないかな？まああくまで推論だけね。」

士「なるほどな！って言うかお前あの時同じ場所にいたのか？あの時何故戦わなかつたんだ？」

海東「戦うのが面倒だつたし、それに4人もいたから十分だと思つてね！だから加勢しなかつたのさ！」

士「お前なあ～」

士は困惑した。

響達「あの～ドーパントって何ですか？」

ようやく落ち着いた2人は話しかけてきた。

士「ドーパントって言うのはガイアメモリをコネクターで直接自分の体に差して変身する超人いや、怪人に変化する事だ。後、過剰適合つてのはメモリと人間の相性が良すぎて過剰に力が上がる現象のことだ。最もこれはWの世界でしか起こらない現象なはずなんだが…」士はWの世界の事も語り出そとしたその時…（ズドーン）（うわ～キヤ～）悲鳴と共に大爆発が起きたのだ。

士「何だ？今の爆発は！？」

海東「まさか！アイツが来たのか！」

響達「アイツ？つて誰ですか？」

海東「さつき言つてた謎の男さ」

士「おいソイツは鳴滝じゃないよな？」

海東「違う！アイツは君によく似ていたんだ。しかも君以上に極悪人さ！」海東が拳を握りながら言つた。

士「俺に似ていただと！？今度は俺の偽物つて訳か！」

ユウスケ「とにかく早く現場に行こう。」

夏美「わかりました皆さん行きましょう。」

士「いや夏美お前は残れ」

夏美「なんですか！」

士「じいさんが心配だ！お前まで来たらじこせん心配するがー。」

夏美はため息をして

夏美「わかりました！士君気よつけてくださいー。」

士「ああ！みんな行くぞ！」

士はマシンディケイダーにサイドカーを付けて響と奏を乗せる。ユウスケはエレンをトライチエイサーの後ろに！ そして海東はなんとかメンライドで仮面ライダーアクセルを呼び出してファイナルフオームライドでバイクに変形させたのだ。

士「おい何だそれは？」

響「まるでバイクみたいな仮面ライダーね。」

海東「僕の新しいお宝で新しい力の一つを！ まあ行こう！」

こうして夏美以外の全員が爆発のあつた場所に移動した。

士「おい、アイツがそうか？」

バイクから全員降りながら士が海東に聞く。

海東「間違いない彼だ！」

海東にしては珍しく恐怖に震えていた。

士「お前が震えているって事は、相当ヤバいなヤツだな！ おいお前一体何者だ！」

? 「俺か？俺はお前の心の闇と憎みで生み出された。もう一人のお前だ！名前はそうだな、門矢壊つて つて名乗ろか！」

士「壊だとふざけるな！お前が俺だと言つのなら勝負しろー。」

壊「良かろう。ただし1対1の対決でだ！」

士「望む所だ！行くぜ変身！」

【カメンライド・ディケイド】

士はディケイドに変身し皆に言つ。

ディケイド「お前らは下がれ！ ヤツは俺が倒す！」

壊「ふん… ゆくぞ変身！」

### 【カメンライド・デストロイド】

壊はディケイドライバーによく似たバッклデストロイドライバーで、黒い音声と共に変身する。

ディケイド「デストロイドだぞ！」

響達「やっぱり私たちも戦います。」

全員が変身体制を取る。

デストロイド「残念だがお前達はコイツらと遊んでおけ！」

と指を鳴らす。するとオーラが現れ中から仮面ライダー エターナル 仮面ライダー 王蛇が現れる。

王蛇「ここが祭りの場所か！ 随分楽しそうな場所に来たもんだな～」  
エターナル「ここに盗まれたメモリがあるって聞いていたが、中々 良いところだな、さあ、地獄を楽しみな！」

ユウスケ「アイツら別の世界のライダーか？」 海東「皆注意しろ！」

アイツらはかなり強いぞ！」

響「何アイツら？ スッゴく強そうなんだけど」

奏「だけどここは…」

エレン「やるしかないわ！」

三人はキュアモジュールを構え変身する

三人「レツツブレイ！ プリキュア・モジュレーション！」  
メロディー「爪弾くは荒ぶる調べ！ キュアメロディー！」  
リズム「爪弾くはたおやかな調べ！ キュアリズム！」  
ビート「爪弾くは魂の調べ！ キュアビート！」

三人「届け、3人の組曲！ スイートプリキュア！」

決めポーズで決める三人

海東「じゃあユウスケいくよ！」

ユウスケ「ああ！」

2人「変身！」

### 【カメンライド・ディエンド】

【カメンライド・デストロイド】

【カメンライド・ディエンド】

ブウン！ブウンブウンブウンターン！

2人は仮面ライダー・ディエンドと仮面ライダー・クウガに変身する。  
メロディー「2人共仮面ライダーだったの？」ディエンド「まあね。  
さあ皆いくよ！」

ディケイド「お前が指切るな！」

クウガ「どうでもいいだろ！行くぞ皆」

こうして謎の男、門矢壊と名乗る男事仮面ライダー・デストロイドとの対決が始まったのだった。果たしてこの戦いの行方は！ 次回に  
続く？

## オリジナルライダー、ディケイドの新たな力、新型ガイアメモリの秘密（前）

オリジナルライダーなどの設定です。

同じ名前を使つてゐる人がいたら、すみません！

ですが安心してください。中身も設定も全くの別人ですので！それではどうぞ～

モモタロス「早く出番出せ～退屈だ～」  
暴れないでくれ～モモタロスさん

## オリジナルライダー、ディケイドの新たな力、新型ガイアメモリの秘密

### 門矢壊

士の心の闇と憎みがガイアメモリ<sup>3</sup>「ストロイ」の力によつて具現化し誕生した姿。

士以上に極悪人で自分が本当の世界の破壊者だと思っている。性格は非常に好戦的だがクールに戦うのを好み、1対1の対決などを好むまたオリジナルの士同様ナマコが嫌い。

### 仮面ライダー「デストロイド

門矢壊が「デストロイドライバー」で変身した姿。見た目は、ディケイド激情態と同じ姿をしているがマゼンタの部分が全て黒く目が赤いのが特長。

ディケイド激情態と同じく全てのライダーの能力が使う事が出来、さらに激情態のステータスを更に上回る。

自分自身の必殺技は「デストロイドキック」。  
「デストロイドブッカー」を使った必殺技  
「ソードモード」「デストロイドスラッシュ」「  
「ガンモード」「デストロイドショート」「  
「アックスモード」「デストロイドクラッシュ」「  
「ランスマード」「デストロイドレイン」がある

### 「デストロイドライバー」

色が違うだけで基本的にはディケイドライバーと同じ性能だが、ディケイドライバー以上に頑丈である。

### 「デストロイドブッカー」

ライドブッカーと同じ能力を持っているが、唯一違うのは第三形態に「アックスモード」第四形態に「ランスマード」がある。

### ガイアメモリT3

ネバーが開発していた新型ガイアメモリの試作品。未だに実験段階のメモリだが、従来型と違い道具や物体をドーパントにする事が可能になった。このメモリは今の所、基本性能はガイアメモリT2の強化型になつていて。

### ディケイドの新たな力

#### アタックライド・スキヤン

ディケイドが新たに使える用になつた能力の一つ、相手をディケイドヴィジョンでスキャンし情報を検索したり相手の体をスキャンして中を調べる事が出来る。

透明になつた相手もスキャンする事が可能。

### 新型ディケイドライバー

新たにWとオーズの紋章が追加されている。基本的には同じ物だがディケイド自身の能力が全て上がつている。

### ディケイドアドバイザー

ディケイドが海東から受け取つた新たなアイテム。形はディエンドドライバーのカード装填口をコンパクトに直しディケイドのマークが真ん中に着いている

ライダーカードを一枚まで装填する事でライダーを召喚出来る。ただし、ディケイドが変身出来るライダーだけしか出来ない。（現在はオーズまで）

召喚されたライダーは原作のライダーと同じ意識を持ち同じ用に戦う。（ただし士の言つことは聞く）

制作者はWの世界のフィリップ

物語では次回作に出る予定！

## オリジナルライダー、ディケイドの新たな力、新型ガイアメモリの秘密（後）

いかがでしたか？

次回は本編に戻ります。ではまた！

モモタロス「いい加減ん頭にきたぜ！－いくぜ俺の必殺技『モモタロスバージョン』」

士「いい加減にしろモモタロス！アタックライド・ブラスト！」

モモタロス「ギャンケツがんちくしちゅう！」

あ～あ～やられちゃった。

## ディケイド&プリキュアVSストロイド前編（前書き）

今回は前半と後半に別れます。後いよいよスペシャルゲスト事、俺の大好きなモモタロスが登場します。

モモタロス「待ちくたびれだぜ！さあひと暴れしてくるから俺様の大ファン共よ！大活躍に期待してくれよなー！」

大丈夫かなモモタロスさん…

## ディケイド&プリキュアvsデストロイド前編

「いぐゼー！おりやあー！」

「デストロイドはデストロイドにパンチを喰らわす！しかし！ガシ！と  
デストロイドはディケイドのパンチを受け止める。」

「デストロイド「なんだ随分ヌルいパンチだな！実力の差を思い知ら  
せてやるわ。」

「ディケイド「そうかよ！だつたらコレはどうだ！」

「ディケイドはライドブッカーをソードモードにしてデストロイドに  
切りかかる。

「デストロイド「ふん！甘いな！」

「デストロイドもデストロイドブッカーをソードモードでライドブッカ  
ーを受け止める。更に2人は剣を巧みに操り互いに切りかかる。

「ディケイド「やるな！さすが俺の力を持つだけにやるじゃないか？」

「デストロイド「貴様の実力はこんなものか！もつと見せてみろ！」

「ディケイド「まだまだコレからだ！」と2人の剣さばきは更に早く  
なる。（キーンキーンガキン）

「ディケイド「くつこれじゃあキリがない！次はコレで勝負だ！」

（アタックライド・ブラスト）

「デストロイド「全く、甘いヤツだな！」

（アタックライド・ブラスト）

「今度は互いに走りながら銃で打ち合う！だが…

「ディケイド「グワア～」ディケイドは力負けし吹き飛ばされる。

「デストロイド「言つたハズだ！実力の差があるつてな～？」

「ディケイドは立ち上がりながら

「ディケイド「だつたら喧嘩が得意なライダーで勝負だ！変身！」

（カメンライド・テンオウ）

「ディケイドはD電王に変身する。

「D電王「電王つて言つたらコレだな！なつしまつた間違えた！」

(アタックライド・オレ! サンジョウ! )

D電王「仕方ないな! とおりあえず、俺<sup>パンパン</sup>参上! 」とポーズを決める!

メロディー「何かダサい名乗りねえ~」

リズム「センスがないわね~」

ビート「みんな、集中して! 来るわよ! 」

エターナルがエターナルエッジを振り回し王蛇が剣で攻撃して来る  
ので、プリキュア達は攻撃を避けながら話して来る。

D電王「じょうがね~ だろ俺の決めセリフじゃねえし! だいたい  
のモモタロスが」

D電王がキレながら説明していると~

? 「おい俺に変われ! そんなダサいポーズは俺の恥だ! 」突然赤い  
光がD電王に入る。

メロディー「何? 今の光? 士さんの中に入ったけど! 」

するとD電王は突然キャラが変わりビシッと先ほどと同じポーズを決め  
る!

M D電王「俺! 参上! 」

リズム「さつきよじビシッとしてカッコ良くなつたわ! けど急にどうして? 」

士「お前! モモタロスか! どうしてこの世界にいるんだ? 」

モモタロス「お前あの時の通りすがりの野郎か! 言いたくないんだ  
が、教えてやる! 今日はハナクソ女にテンライナーから吹き飛ばさ  
れてここに飛ばされちまつたんだよ! アイツ帰つたらただじゃおか  
ねえ~からな」

士「お前また飛ばされたのか? 何やつてんだか。ってそうじやなか  
つた。」

デストロイド「何だ貴様! 士ではないな! 答えろ! 」

モモタロス「うるせえ! 黒子野郎! 言つておくが俺には前振りはね  
え~最初から最後までクライマックスだぜ~ いくぜいくぜいくぜ  
~! 」

M D電王は再びソードモードでムチャクチャにデストロイドに戦い

を挑む。

デストロイドも剣で応戦する

デストロイド「むつ貴様中々やるな！？何者だ？」

モモタロス「俺か？俺はモモタロスだ！覚えおけよ！」

メロディー「士さんに取り憑いたのってもしかして幽霊？」

ビート「ひい～幽霊！？やだ～やめて～」

ビートが逃亡しようとするのをリズムとクウガが必至に止める。

リズム「ビート落ち着いて多分あれは幽霊じゃないから」

ディエンド「全く君は世話が焼けるね。あれは幽霊じゃない。イメージンだ！」

メロディー「ヒマジン？」

リズム「違うってイマジンよ！海東さんイマジンって何ですか？」

ディエンド「イマジンは電王の世界にいる怪人のことだ。今、士に

憑依しているのは正義のイマジンモモタロスさ

ビート「な～んだ幽霊じゃ無かったんだ～良かつた～一人ともごめんね～もう大丈夫だよ」

リズムとクウガが手を離す。

王蛇「よそ見するんじゃねえ！」敵が切りかかつて来るので全員かわす！

プリキュア達「はあ～プリキュア！トリプルパンチ！」

プリキュア達のパンチが見事に決まり王蛇が怯む。

王蛇「ちっだがまだまだ！」

王蛇はファイナルベントを発動する！

(ファイナルベント)

王蛇はベノクラッシュを発動する

王蛇「死ね～！」

ディエンド「ユウスケ使いたまえ！」

すばやくドライバーを投げ渡す！

クウガ「わかった！超変身！」

クウガはペガサスフォームに変身してペガサスボウガンブластペ

ガサスを放つ

ボウガンを引いて弾丸を放ちベノクラッシュを放つた王蛇に命中す

王書「べゑ～～～～～～～～～～～～」

## 地面に叩きつけられる王蛇

元ノトロハト 王蝶。一曰弓作。後は我父に任せ。

王蛇がオーラに散る。

クウガ「サンキューなコレ」

エリヤハ二を指し渡す

エターナル「精分黒一マツダ。」

再び互いに戦闘に入る。

その頃モモタロス達は？

三一齋文集

「ヤシホウ」

先の剣を使いたいぜ！」

士「あるぜ！モモタロス

「想像」

モモタロウ「悪い！形忘れた！」

すると「ヒト」が「力」一柄のヒトが出てきてM・D電王がそれを掴む。

MD電王「おつテンガツシャーだ。」

(アタッククライド・デンガツシャー)

すると「テンガツシャーネーモードがモード電王の手に取まる。モード電王「よつしゃ～いへこへせいへせ～」しかし!バシー向

「デストロイドはデストロイドブッカーランスマードでモモ電王をなぎ払ったのだ。

その衝撃でモモタロスがD電王から飛び出し、D電王も元のディケイドに戻る。

「いててモモタロス大丈夫か？」

モモタロスは先ほどの衝撃で実体化して、ディケイドの隣で氣絶していた。

「さあ、お遊びはここまでだ！」

「仕方ないここはコンプリートフォームで行くか！うん！？ケータッチが無い！？なぜだ！まさか忘れたきたのか？」

「ケータッチは僕が預かるって話しただろ？」

「海東お前盗つたのか？」

「違う、僕のを含めてバージョンアップするから君から借りたのさ」

「その事を思いだした。」

「今はどこにあるんだ！」

「Wの世界にいる天才少年のフィリップ君に預けてある。今日は終わるハズさ」

エターナルがトリガーマグナムで攻撃をしてきたので、ディエンドが避けながらあるアイテムを取り出して、ディケイドに投げ渡す。

「受け取りたまえ士！僕からのプレゼントだ」

ディケイドもデストロイドの攻撃を避けながらそれを受け取る。

「これは？」ディエンド「僕がWの世界で天才少年君に依頼して作つてもらつた君専用の新兵器、ディケイドアドバイザーア。

さ。

それはどことなくディエンドライバーに似ているが、ドライバーよりも小さくコンパクトな形をしていて、ディケイドマークが真ん中に付いたアイテムだった。

「なるどな、しかし一体どういう風の吹き回しだ？」

「僕らは仲間だろ？それだけぞ」

「ディケイド、とつあえずサンキューなーだが、コイツはビリやつて使つんだ?」

ディエンド「まず左腕に装着するんだー。次に君が变身出来るライダーカードを一枚まで装填するん…」エターナルが再び攻撃を加えて来たので説明が途切れる。

ディケイド「とりあえずやつてみるかー!」

ガチャー! とディケイドの左腕にディケイドアドバイザーが装着される。

ディケイド「いぐぜー!..」

(カメンライドオーズ)

(カメンライド・ファイズ)

ディケイドのディケイドアドバイザーは何と一人のライダーを召喚したのだ!

ファイズ「戦う事が罪なら俺が背負つてやるー!」

オーズ「目の前に命があるなら俺が必ず救つてみせる!」

ディケイド「なるほどな、コイツは驚いたぜ!」

果たして、この戦いの決着は?

後半に続く!

## ディケイド&プリキュア～ヒストロイド前編（後書き）

いかがでしたか？

オリジナル設定に登場した新アイテム！

その名もディケイドアドバイザー！

いよいよ本格的に起動してきましたよ～。

モモタロス「う～ちくしょう大した活躍出来なかつたぜ～クッソ～」  
モモタロスさんまあまあ落ち着いて、仕方ないですよ。あなた気絶してしまったんだから。

モモタロス「ちくしょう～悔しい～」

駄目だこりや、

さて次回はではなく 再びディケイドアドバイザーの追加設定！新ケータッチの設定！ディケイド新生コンプリートフォーム＆ディエンドコンプリートフォーム～2について説明しようと思つております。

実はディケイドアドバイザーはタダの戻還機ではなくーおつとまた次回をお楽しみに～

モモタロス「クッソ～」

モモタロスさんしつ～

## ライターの新アイテムと新ロハコートフローの解説と説明（前書き）

やつと設定編集出来ました。ではいりやー。

モモタロス「早く暴れでえ～」

エレン「うるわこよモモタロス」ボカー

モモタロス「こってえな～いきなりなにしゃがるんだ？」

## ライダーの新アイテムと新コンプリートフォームの解説と説明

「ディケイドアドバイザーナックルモード」  
「ディケイドがコンプリートフォームに変身した時のみ使用可能になる。事実上コンプリートフォーム専用モード」・「ディケイドアドバイザーの真の姿で外見は一変してナックルウェポンのような形に変形する

必殺技は「ディメンショナルライダーパンチ

「ディケイドレジョントコンプリートフォーム（ディケイドLCF）」「ディケイドがバージョンアップしたケータッチで、コンプリートフォームに変身した姿！」

全てのステータスが通常のコンプリートフォームの十倍になつており、ダブルヒーローズのカードがクウガの下に追加されている。  
本編では最終回に出る予定

新ケータッチ

「ディケイドとディエンドのケータッチがリニューアルされた物。基本性能が上がつておりそれに新しいカードが追加された。ディケイドがWのマークを押すとエクストリームヒーローズならプロティラノコンボが呼びだされる

「ディエンドコンプリートフォームVV2

「ディエンドが新たなカードを使って変身する強化コンプリートフォーム。同じく通常の十倍に強化される。飾りのカードが全て「1号ライダー」になつてているのが特徴。

順番は次ようななつてている

G3 ナイト カイザ ギャレン 威吹鬼 ガタック ゼロノス

イクサ アクセル バースの順番になつて  
呼び出すとそれぞれ強化フォームになる

G3=G3X

ナイト=ナイトサバイブ  
カイザ=ブラスターフォーム。

ギャレン=キングフォーム

威吹鬼=アームド

ガタック=ハイパー

ゼロノス=ゼロフォーム

イクサ=ライジング

アクセル=ブースター

バース=バースデー

こちらも最終回に登場予定

仮面ライダー=カイザ ブラスター フォーム  
本作オリジナルフォーム。

スマートブレイン社が開発したカイザブラスターを使って変身した  
カイザ最強形態。基本的にはファイズブラスター同じ性能で同じの  
名の技も使う。

必殺技はカイザブラスター・ショット

仮面ライダー=ギャレン=キングフォーム

本編では登場しなかつた幻のフォーム。後は公式設定を参照。

仮面ライダー=威吹鬼アームド。

本作オリジナルフォーム

威吹鬼がアームドセイバーを銃型にしたアイテム、アームドマグナ  
ムで装甲化し変身した威吹鬼の最強形態。

必殺技は威吹鬼波動弾！

声を高める事で威力を調整できる。

共通カード。

ファイナルカメンアタックフォームライドオールライダーズ。

全てのライダーが一斉攻撃を仕掛ける、一人の最強技。ただし一度の戦いで1回しか使用出来ない。

## ライターの新アイテムと新コンピュートフォームの解説と説明（後書き）

いかがでしたか？色々な設定を作るのは本当に楽しい事です

さて実はこの場をお借りして皆さんに報告させておきます。

モモタロス「なんだよ急に？」

実は俺は仮面ライダーとモモタロスは大ファンなんですが、プリキュアは全然ファンでもないんです！不快になつたら皆さんすみません！（必至の土下座）

モモタロス「なに～じゃあ何故この小説を作ったんだ！」

え～と、実は俺はエレン役の豊口めぐみさんが大好きなんです。それが理由でこの小説でコラボしたら面白いかなって思つたんです。全員「ファンに失礼だろ～そんな理由で作るな～」

ぎや～ごめんなさい（必至の土下座）許して～

じ次回はいよいよ後編でお楽しみに～

後プリキュア達が本格的なFFRするかもしねないので～（ダッシュ）

全員「逃げるな～」

## ディケイド&プリキュアvsヒストロイド 後編 最後の戦い！？（前書き）

モモタロス「俺様の出番まだか～戦わせろ～」

モモタロスさん今日から復活しますから大丈夫ですよ。

モモタロス「本当か～よしあーひと暴れしてくるぜ～」

ではスタートです

## ディケイド&プリキュアvsストロイド 後編 最後の戦い！？

一方のディエンド達とプリキュアはエターナルの強さに苦戦していた。

ビート「ハアハア～なんて強いヤツなの！」

リズム「このままだと全員やられちゃう。」

メロディー「みんな諦めないで！ここはみんなの必殺技でいくわよ！」

クウガ「よし！こつちは究極の力で！いくぞ！超変身！」

クウガは再度変身ポーズをして、クウガ最強のライジングアルティメットに変身する。

メロディー「スゴ～イ！なにソレ～」

ビート「まるで黄金のクワガタ虫みたい」

リズム「スッゴく格好いいわよ～！」

RUクウガ「ありがとうみんな～」

仮面の下でニヤニヤするコウスケ

ディエンド「ニヤニヤしている場合じゃ無いだろ！！　まったく。士へ人借りるよ…」

ディケイド「わかつた好きにしろ！」

ディエンド「君！痛みは一瞬だ！」

と1枚のカードを銃に装填しファイズに向ける。

ファイズ「アイツ何をするつもりだ！」

オーズ「さあ？何でしじう？」

ファイズエッジとメダジャリバーでデストロイドを攻撃しながらお互いに顔を見る。

【ファイナルフォームライド・ファファファファイズ】

ファイズ「今の何なんだ？！オワ～」

ファイズが奇妙な声を上げるとファイズブラスターに変形する！

オーズ「えつファイズさんが武器になった？」

メロディー「変形した！」

リズム「なんか痛そう」

ビート「不思議ね～」

ファイズ「おい！コレは何なんだ！」

ディエンド「僕と君の力さ…さあいくよ！」

【ファイナルアタックライド・ファーファーファイズ】

ディエンド「はあ～」

メロディー達もベルティエとロッジを取り出してフェアリートーンを装着して技を放つ。

メロディー「プリキュアミュージックロンド！」

リズム「プリキュアミュージックロンド！」

ビート「プリキュアハートフルビートロック！」 プリキュア達も一斉に技を放つ！

RÜクウガ「ハア～！」

RÜクウガは飛び蹴りの体制で炎と雷をまとった、ライジングアルティメットキックをエターナルに向けて放つ！だが…

エターナル「そんな技が俺に通用すると思つてているのか？バカな奴らだ」 エターナルはエターナルエッジにエターナルメモリを装着する。

【エターナルマキシマムドライブ】

エターナル「さあ、地獄を楽しみな！」

エターナルエッジから衝撃波が発生してディエンド達の技を消し去り全員を吹き飛ばす！！

メロディー「くつなんて威力なの！？あれ？ミリーどうしたの…！  
きやあ～！」

リズム「メロディー…どうなってるの？！ ファリー大丈夫？ああ～！」

ビート「みんなどうしたの！ソリーしつかりして！くつ力が！」

何とフェアリートーンが突然弱り、プリキュア達の変身も解けてし

まったくののだ！

RUSHKUUGA「なんだ今のは！ぐつ力が！急激に抜けていく…うわあ  
～！？」

何とRUSHKUUGAまで技を強制的に解除されその場に倒れる…そのまま変身も解けてユウスケが氣絶する。

DEIKEIDE「おいユウスケ！しつかりしろ…一体どうしたんだ！」  
DESTROID「他人を心配している場合か！」

【ファイナルアタックライド・デエデエデエ】  
DESTROIDがDESTROIDブツカーアックスモードで必殺技を、DEIKEIDEに叩き込む。そのダメージでDEIKEIDEは変身が解けて同時にオーブも消滅する！

S「ぐはっなんて力なんだ！？」

DIEND「士！くつまずいな！」FAIRYBLASTERは吹き飛ばされた衝撃で消えていた。

DEIKEIDE「エターナルメモリは他の旧型メモリを無効化する能力のはずだ！なのになぜ？まさか！」

ETERNAL「気づいたようだな！お前の察しの通りコイツは完成したガイアメモリT3だ！ハハハハ！」ETERNALは不気味に笑う。  
DIEND「どういう事だ！メモリは確かに全て僕がいただいたはずだ！」

ETERNAL「バカだな！試作品なんていくらでも作ってんだよ！そしてこのメモリを含め24本完成させたのさ！お前たちのくだらない力なんてこのETERNALメモリがあれば封じる事が出来るんだよ！」

EREN「だからフェアリーートーンが弱ったのね！アイツ！絶対に！  
許さない！」三人は強く拳を握る。

DIEND「クソ、なんて失態をしてしまったんだ僕は！？グワア  
～！？」

海東も変身が解ける！

エターナル「残りはお前らだなゆっくり始末するか！」

響「まだよ！！」

と響が立ち上がる

エターナル「何だ小娘！力がないザコは大人しくしてろ！」

奏「まだ、私達には友情のハーモニーパワーがある！」

エターナル「友情のハーモニーパワーだと！？」

デストロイド「そんなくだらない友情で何が出来るー破壊こそ最強の力だ！ハハハハハハ」

エターナル「デストロイドの言つとおりだ！ぐだらん！死ねよお前ら！」

エレン「違う私達の友情は絶対にくだらない物じゃないわーー絶対に違う！」エレンがライダー二人を睨みつける。

デストロイド「バカかお前は！あり得ないんだよ！」

士「いや、それは違うなー！そいつらは正しいぜ！」

士は立ち上がりながら言つ！

デストロイド「なに？」

士「友情ってのはお互いに支える力の事なんだ！その絆はやがて自分達以外の新しい力を生み出す。破壊ばかりしか出来ないお前らなんかよりも十倍いや、百倍も強いんだ！だからお前らは絶対にそいつらの友情や絆に勝てやしないんだよー！」

デストロイド「貴様一体何様のつもりだ！」

士「通りすがりの仮面ライダーだ！覚えておけ！変身！」

【カメンライド・ディケイド】

【カメンライド・オーズ】

变身と同時にオーズが再び召還される！

響達「私達は！この世界の音楽と友情を守るプリキュアよー！」三人から友情のハーモニーパワーが出て再びプリキュアに変身する

メロディー「爪弾くは荒ぶる調べ！キュアメロディー！」

リズム「爪弾くはたおやかな調べ！キュアリズム！」

ビート「爪弾くは魂の調べ！キュアビート！」

三人「届け、3人の組曲！スイートプリキュア！」

三人が名乗りり上げる！

海東「さあ最後の戦いの始まりだね！変身！」

【カメンライド・ディエンド】

立ち上がり再びディエンドに変身する！

そして氣絶していたユウスケとモモタロスが氣がついて立ち上がる  
ユウスケ「みんなの笑顔と友情の為に俺達が止めてみせる…変身…」

ユウスケはクウガマイティフォームに変身する。

モモタロス「さつきはよくもやつてくれやがったな…だがな本当の  
戦いはコレからだぜ！」

モモタロスはライダー・パスとテンオウベルトを取り出して腰に装着  
するとボタンを押す！するとメロディーが流れ出す！

モモタロス「行くぜ！変身！」

（ソードフォーム）

セタッチして電王ソードフォームに変身する！

電王「俺！再び参上！」

電王がまたポーズを決める！

メロディー「モモタロスがさつき士さんが変身したライダーになつ  
ちゃつた！」

リズム＆ビート「どうなつてるの？」

ディケイド「俺がさつき変身したのはカードの力で同じ姿になつた  
だけだ。そしてあれが本当の電王だ！」

ブリキュア達「なるほどね～」

デストロイド「バカな変身出来るハズが！」

エターナル「どうなつてるんだ！」

オーズ「あんた達のメモリはもう通用しないよ！既にある人によつ  
て無効化されているんだからね」

エターナル「バカな！アイツはこの世界に来て無いハズ！」

?「残念だけど君のデータは検索済みさ。それとエターナルの能力  
は無効化させてもらつたよ！」突然ディケイドアドバイザーから映

像が出てきたのだ！

「フィリップ「やあみんな待たせたね！」

「ディエンド「やあ、フィリップ君、随分と遅かったね！」

「フィリップ「色々時間がかかってね。でも無事に完成したよ。さあ、君たち二人にお届けものだよ！」

「フィリップは転送装置で二人に新ケータッチを送る

「ディケイド「確かに受け取ったぜ！全ての力を！」

「ディエンド「うん、だいぶ軽くなつたな！」

「メロディー「あれがフィリップさんなんだ！」

「リズム「なんかかっこいいかも」

「ビート「すごく頭良さそうね。」

「フィリップ「僕の出番は終わりだね。それじゃあまたね。

「フィリップが消える。

「デストロイド「バカなこんな事が！」

「エターナル「まさかそこに転送装置と無効化プログラムが入つていたとは！許さんぞ貴様ら！」

「デストロイド「お前らを破壊してやる。ふん……」「デストロイドは自らの体からメモリを取り出しエターナルに渡す！

「デストロイド「使え！そしてコイツらを滅ぼせ！」

「エターナル「わかった。」

「ゾーン！マキシマムドライブ

「デストロイドを含めた23のメモリが一斉にマキシマムドライブを発動する！」

「エターナル「はあ～コレで終わりだ！」

「エターナルが最強の必殺技ネバーエンドワールドを発動する！

「ディケイド「させるか！必ず止めてやるーうん？」

「ライド・ブッカーから三枚のカードが出てくる。

「ディケイド「よし！まずはコレだ！オーズちょっととくすぐったいぞ

「！」

（ファイナルフォームライド・オッオッオッオーズ）

オーズ「えつ おれですか！」

ディケイド「いいから後ろむけ！」

強制的に後ろ向きにされるオーズ

オーズ「うわあ～！」

そのままオーズはメダジヤリバーに似た巨大な剣オーズジャリバーに変形しディケイドは両手で握り構える。見た目はメダジヤリバーに似ているがセルメダルの変わりにタトバのコアメダルが入っていた。ディケイドはすぐに必殺技を使用する、

（ファイナルアタックライド・オツオツオツオツオーズ）

すると巨大オースキヤナーが何所からもなく現れてスキャンする

（トリプルスキヤニングチャージ）

ディケイド「行くぜ！セイヤア～」

ディケイドはオーズジャリバーからディケイドバッショウを炸裂させる！

メロディー「私達の友情の力」

リズム「絆の力」

ビート「見せて上げるわ！」プリキュア達「プリキュアパッショナ～トハ～モニ～！轟け三人のハーモニーパワー響渡れ～！」

それぞれの技が決まりエターナルは吹き飛ばされて倒れる！

エターナル「くっクソ！覚えておけお前ら」とオーラに撤退する

ディケイドがオーズジャリバーを放り投げると消滅する。

ディケイド「さあ残りはお前だ！みんないくぞ！」

プリキュア達「はい！！」

果たして決着はどうなるか！

続く！

モモタロス「何だよ変身シーンだけじゃないか…どうなってるんだよ！」

まあまあ、次回には思いつきり暴れてもらいます。なんせ感動の最終回ですから。

モモタロス「よし次回こそ…うん最終回？」

エレン「え～もう終わるの～」

あまり長すぎると終われなくなってしまうし、一いちも疲れるんですよ。次回作のネタ作り始めたいし。

エレン「ふうんそなんだ お疲れ様」（にこ）

！なんかやる気出た～

さて次回はいよいよ最終回です。後、またまたスペシャルゲストに来てもらいます。もちろんあのイカ頭ライダーですよ

？「誰がイカ頭だ～お前気にいらねーが友達になつてやる！」

おっ元気ありますね。しかも友達に！次回にはもちろん本作オリジナルフォーゼのFFRあります。

モモタロス「てめえ俺を無視するな！必殺！俺の必殺技！俺の相手は100年早いだんよ切り！」

うわあ～やめて～

## 決着と序曲キター！（前書き）

フォーゼのパート修正版です！ではスタートです！色々手を加えてみました。ではどうぞ

## 決着と宇宙キター！

デストロイド「ふふふ！なめるなよ！俺には貴様ら全員を倒す切り札がある！」

ディケイド「切り札だと！？」

ビート「一体何をする気！」

デストロイド「戻つて来い！我がメモリ達よ！」

すると地面に落ちていたデストロイドメモリと海東が持っていたマッシュルとソルジャーがどこからか飛んで来てデストロイドの手に収まる！

ディエンド「僕のお宝が！一体なぜ！」

デストロイド「元々このメモリは俺のマスターがネバーの組織に作らせた俺専用のメモリだからだ！」

ディケイド「お前専用のメモリにマスターだと！？どうこいつ事だ！」

デストロイド「冥土の土産に教えてやる。海東から奪つたメモリをメフィストに渡したのも俺のマスターさ！その名はマスター・ウォーズ！」

リズム「何者なの！その人！」

デストロイド「俺を生み出したショッカーの科学者であり、ディケイドの持つディケイドライバーを開発した張本人さ！」

ディケイド「コレを作った張本人だと！？」

デストロイド「そうさ！だからマスターは俺のデストロイドライバーも作れたのさ！そしてそこにいる海東大樹のおかげで俺は究極の力を得る事ができる！」

ディエンド「僕のおかげだと！？嘘だ！それにメモリは君が僕から盗んだハズだ！」

デストロイド「俺のマスターは変装が得意なんだよ！それにマスターがなぜわざわざお前にメモリを盗ませたと思う？それはメモリを

強化させる為さー。」

「ディエンド「わざとだと！？じゃあ初めから僕が盗むのも計画の一つだったのか！」

「デストロイド「まさにその通りだ！ちなみに、それぞれのメモリにはお前達の力と俺の力を吸収して強くなるようにしてある…まあ、見るがいい究極の破壊の力を！」

三つのメモリが合体し一つのメモリになる…

メロディー「合体した！？」

「デストロイドがメモリを押す！」

メモリ「アルティメット！」

「ディケイド「なに！アルティメットだと！？」

「デストロイド「コレが俺の最後の力だ～ハア～！」

「デストロイドはメモリを胸に差し込む！するとメモリはデストロイドに吸収されデストロイドから凄まじい闇のオーラが放たれる！」

「デストロイド「これが最凶のデストロイドアルティメットモードだ！」

「ウォ～貴様らと、この世界を破壊して…やる…！」

「プリキュア達「くつなんて力なの！コレじゃあ近づけない！」

「ディケイド「みんな諦めるな！このカードで勝負するぞ！」

「ディケイドは2枚目のカードをバツカルに装填する。

（ファイナルフォームライドプッッププリキュア）

「メロディー「えつまさか！」

「リズム「嫌な予感！」

「ビート「何をする気なの？」

「ディケイド「お前らいいから前向け！ちょっとくすぐったいぞ」ディ

「イケイドは三人の背中に手を当てる！そして、なんと三人は巨大な

「専用武器に変わったのだ！」

「クウガ「士、お前鬼だな。」

「電王S「痛そうだな～！オ～イ嬢ちゃん達大丈夫か？」

「ディケイド「仕方ないだろ！そういう力なんだ！」

「メロディーベルティエ「もう早く必殺技決めて！」

リズムベルティエ「早く元に戻りたいの！」

ビートギターロッド「今のかすぐつたいレベルじゃないんだから」「  
ディケイド」ユウスケ！海東！お前ら握れ！決めるぞ！」

「ディケイドはメロディーを握る

「ディエンドはリズムを！」

クウガはビートを持つ

「ディケイド「行くぜ」

（ファインナルアタックライド・ップアッププリキュア）

全員「プリキュア！ディメシヨンロンド！いつけ～」

全員の声と共にリングがデストロイドAMに命中する！

全員「3拍子！1・2・3！フィナーレ～」

だが！

デストロイドAM「無駄だ！そんな技では俺は倒せないぞ！」

何とデストロイドAMには必殺技は効かずに無傷のまま立っていた。

「ディエンド」駄目だもつと強い技で攻撃しないと！」

プリキュア達が元に戻る！

メロディー「結局意味ないじゃない！あ～痛かった～」

リズム「今回だけで良かつた。あ～体が痛い～！」

ビート「二度とゴメンだわ！」う～背中が！」つとプリキュア達はうめいた。

「ディケイド」悪かつたな！だがコレでも駄目ならコイツの出番だな

「！」  
つと2人がケータッチを取り出した正にその時！目の前にオーラが出現したのだ！

「ディケイド「なんだ？」

メロディー「あれ？誰か出てきたよ！」

突然中から男子高校生が出てきた！

？「やつべえ～完全に遅刻だ～うん？」「はどこだ～！」と叫ぶ！

その高校生は短ランにTシャツにボンタンに友情と書かれたファイアマーク入りのカバン。そしてリーゼント頭だった。

リズム「あの、アナタ誰ですか？」

弦太郎「俺か？俺は如月弦太郎だ。天ノ川学園高校の一年生だ！よろしくな！」

驚きながらもきつちり挨拶をする弦太郎

メロディー「キュアメロディです。ってそうじやなかつた！天ノ川学園高校？そんな学校あつたつけ？」

リズム「私達の世界にはない高校よ。という事は…」

ビート「別の世界から来たつて事？」

弦太郎「うん？別の世界？どういう事なんだ？って言うかお前らはなぜ変なコスプレしているんだ？」

その一言にメロディー達はずつこける！

メロディー達「わたし達はコスプレしてません！！わたし達は伝説の戦士プリキュアです！」

弦太郎「えっプリキュア？戦士？つて事は君たち仮面ライダーって事か？」

メロディー「だから、わたし達は仮面ライダーではなくてプリキュアです！確かに力は似ていますけど、全くな別物なんです！」

ディケイド「それにここはお前の住んでる世界じゃない。ここはプリキュアの世界なんだ！つまりパラレルワールドつて事だ！」と言うかお前どうやってこの世界に来たんだ？しかも何故仮面ライダーを知っているんだ！」

弦太郎「えっ？俺はいつものように学校に向かつて走つて、だけど遅刻しそうでやばかつたから近道しようと角を曲がつたらここに付いたんだ！それに俺は仮面ライダー部の部員だ！」

ディケイド「仮面ライダー部？」

弦太郎「仮面ライダー部つてのは学園や困っている人々を助ける公式の部活なんだ！」

自慢げにコレまでの出来事を話す弦太郎。  
しばらくして・・・

ディケイド「なるほどなーそれでライダーの事を知っていたのか！」

弦太郎「まあな！あ～あどうじょうへ・うん？とりあえず放つておいたアツいいのか？」

弦太郎が指を指すとデストロイドAMが巨大な闇の塊を作っていた。  
デストロイドAM「俺を無視しやがって！貴様ら全員死ね～！」  
ディエンド「とりあえず君もライダーなんだろう早く変身してくれたまえ！」

弦太郎「おう！」

とカバンの中からフォーゼドライバーを取り出して腰に装着する！  
ビート「何あのベルト？たくさんのスイッチが付いたいるけど…」  
ディケイド「変わったベルトだな！」

弦太郎はベルトの赤いスイッチを全て入れる！

【 3 ( three ) 2 ( two ) 1 ( one )】

弦太郎「変身！」

弦太郎がガツツポーズの用に構えそしてレバーを引くと同時に腕を突き上げた瞬間に光のリングが現れ弦太郎が変身する！  
メロディー「う～まぶしい！なんなの！」

弦太郎は煙と共に姿を変え仮面ライダー／フォーゼに変身した！

フォーゼ「とりあえず宇宙キター！」

フォーゼはバンザイをしながら叫ぶ！

ディケイド「なつなんだ！」

電王S「あの坊主が変身しやがった！しかもイカ頭の仮面ライダーか？」

フォーゼ「イカ頭って言つた！俺は仮面ライダー／フォーゼだ！」

ディケイド「仮面ライダー／フォーゼか！まあいい、援軍は1人増え  
るだけでも心強い」

フォーゼ「まあ、細かい事は気にしないでくれ！それじゃあタイム  
ン張らせてもらうぜ！」

フォーゼは右拳を前に突き出して言つて

ビート「タイムン？何それ？」

フォーゼ「1対1で戦うつて意味だ！さあ出てきてそつそつ悪いん

だが時間ねえし！さつさと終わらせるか！いくぜ！」

フォーゼは走りながらオレンジのアストロスイッチを押す！

### 【ロケット・オン】

独特のメロディーが流れて、腕にロケットモジュールが装備される！  
メロディ「右腕にロケットが装着された？」

フォーゼはそのままま空中に飛んだ！

フォーゼ「さらにいくぜ！」

次に黄色いアストロスイッチを入れる！

### 【ドリル・オン】

今度は左足にドリルモジュールが装着される！

リズム「今度はドリルだわ！だけど、あれでどんな技を？」

フォーゼ「食らえ～ライダー・ロケット・ドリルキック～！！」

フォーゼはもう一度レバーを引く

### 【コミットブレイク】

フォーゼ「おりやあ～」

デストロイドAMに向けて必殺技を炸裂させる！

電王S「しゃあ！俺も行くぜ～！」

電王がベルトにパスをセタッチしてフルチャージして走る！

### 【フルチャージ】

電王「いくぜ！必殺！俺の幻の必殺技！パート4～おりやあ～！」

電王はデストロイドAMに向かつて行き斜め、横、縦で4を描く用に切り裂く！

だがデストロイドAMはそれらの技を受け止めて必死に耐える

デストロイドAM「まだまだ～ふん！」

火炎弾で接近していた電王に攻撃する！

電王「うお～あぶねえ～あちい～！」

火が当たり火だるまになり転がってディケイドの元に戻る電王

フォーゼ「待つてろ！すぐ助けてやる～！」

フォーゼは着地して走りロケットスイッチを外してファイヤースイッチをセットする

### 【ファイヤー】

フォーゼ「消化タイムだ！」  
スイッチを引く！すると

### 【ファイヤー オン】

独特のメロディと共に一部を除いて赤い戦士ファイヤーステイツにステイツチエンジする。  
そしてヒーハックガンが出現して素早く消火モードに切り替えて構えた。

メロディ「赤いフォーゼ？」

リズム「どこかで見た事ある姿ね～？」

ビート「わかつた！消防士よ！」

フォーゼ F 「正解！まつてろよ～！」

消火を開始して電王を助ける！そして

電王「助かつた～ありがとよ唐辛子！」 真っ白

フォーゼ F 「誰が唐辛子だ！まったく！だけどアイツ強いな～どうすれば！」

困るフォーゼ

ディケイド「しかたないな！」

と最後にフォーゼの絵柄が入ったカードを使う！

ディケイド「ちょっとくすぐつたいぞ！」

【ファイナルフォームライド・フォフォフォフォーゼ】

フォーゼ F 「えつなんだ？今の音 うわ～！」

フォーゼはベースステイツに戻つてドリルが先端に付いた大型口ケットに変形てしまった！

メロディー「今度はロケットに変形しちゃつた！」

フォーゼ「なんだよ～コレ～！」

ディケイド「コレが俺達の力だ！行け仮面ライダー フォーゼ～！」

フォーゼ「何だかわからんね～けどいくぜ～！」

【ファイナルアタックライド・フォフォフォフォーゼ】

フォーゼ「食らえディメンションライダードリルアタック～～！」

電王「ぎゃああ～」巻き込まれた！

電王を巻き込み共にフォーゼが突っ込む！

デストロイドAM「グワア～」と大爆発が起ころる！

フォーゼは元に戻つて地面におりた。

フォーゼ「よつしゃ～！」

電王「！…いつてえ～何しやがるんだ！」

立ち上がつて講義する電王

フォーゼ「悪い！偶然だつて！」

必死に誤るフォーゼ

デストロイドAM「まだだ！この程度で負けてたまるか！」

何と大ダメージを受けたデストロイドAMはフラフラとしながら何か立場上がつた。

メロディー「嘘～！あれだけ激しい必殺技が当たつたのに…」

フォーゼ「なんてタフなやつだ！？」

ディケイド「やっぱりコイツの出番だな！」

ディケイド達は再びケータッチを取り出す

メロディー「待つて！今の土さん達の力だけじゃ力が足りないわ！だから、わたし達の残つた最後の力を使つて！」

クウガ「だがそんな事をすれば君たちが！」

リズム「わたし達は大丈夫です！」

ビート「わたし達の友情のハーモニーパワーならあなた達に力を与えられるハズ！それにわたし達の力もあまり残つてないの！」

メロディー「お願い！やらせて！」

メロディーがディケイドを見つめる。

ディケイド「わかった！だが絶対に無理はするな！いいな！」

メロディー「リズム、ビート！いくよ～ハア～！」

メロディー達の手からハーモニーパワーが光になりディケイド達に注がれる！

ディケイド「これがプリキュアの力か！」

クウガ「ハア～」

ディエンド「力が！僕達の中に彼女達の力が溢れてくる！」

そして、力を託したプリキュア達は変身が解けそのまま倒れる。

響「負けないで…」

奏「必ず勝つて…」

エレン「約束だよ…」

ディケイド「ああ！必ず勝つてやる！」

クウガ「託された力無駄にはしない！みんな、いくぞ！究極変身！」

クウガはポーズを取るとライジングアルティメットに変身する。しかも目が赤ではなく黄金に変わっていたのだ。

デストロイドAM「何だその目は？」

RUクウガGアイ「コレがプリキュア達の友情の力だ！」

デストロイドAM「そんなバカな！」

光のオーラをまとったディケイド達は新ケータッチを押し始める。

マゼンタのケータッチ「クウガ・アギト・龍騎・ファイズ・ブレイド・響鬼・カブト・電王・キバ・ダブル・オーズ！ファイナルカメンライド・デイケイド！」

シアンのケータッチ「G3・ナイト・カイザ・ギャレン・威吹鬼・ガタック・ゼロノス・イクサ・アクセル！ファイナルカメンライド・ディエンド！」

ディケイドはレジメントコンプリートフォーム▼2に！

ディエンドはコンプリートフォーム▼2になる。

フォーゼ「俺もやるぜ！」

フォーゼはファイヤースイッチをエレキスイッチ變えて押す

【Hレキ】

【Hレキ～オン】

またメロディーが流れて金色の戦士エレキステイツにステイツチエンジシビリーザロッドを持つ！そしてコードを刺して構える！

デストロイド「くつそんな姿になつても無駄だ！」

ディケイドレOF「どうかな！今から友情の力を見せやる！海東！」

弦太朗！」

「ディエンドCF「ああ！！」

フォーゼE「おう！」

2人「コレで最後だ！」

【ファイナルカメン】アタックフォームライド・オッオッオッオールライダーズ

RUSHクウガGと電王と召還されたライダー達は最強フォームに強化変身をして光線とキックなどの必殺技を放つ！

クウガ・アギト「はあああ！」

【ガチャ！】ケロベロスを構える

【ファイナルベント×2】

【E × s e e d c h a r a g e × 2】

【ロイヤルストレートフラッシュ×2】

【音撃刃 鬼神覚声】

【音撃弾 鬼神覚声】 イブキ

【マキシマムハイパーサイクロン】

【123！ライダーキック】

【フルチャージ×2】

【ウェイクアップ】

【～～～】

【エクストリームマキシマムドライブ】

【エンジンマキシマムドライブ】

【ブットツティラノ～ヒッサ～ツ】

【セルバースト】

【リミットブレイク】 スイッチをセットして発動

一斉攻撃が炸裂する

ライダーズ「はああああああああああああああ！どりやあああ！」

フォーゼE「くらえライダー100億ボルトブレイク～～～！」

フォーゼもすれ違いでデストロイを切り裂く！

デストロイドAM「ぐお～バカな～究極の力が通用しないだと～？」

何とか耐えるデストロイ！だが

ディケイド「言つたはずだ！そんな力は友情の力に勝てないってな

！」

【ファイナルアタックライド・ディ・ディ・ディ・ディケイド】  
ディケイド「くらえ～俺達の友情の力を！」

ディケイドはディケイドアドバイザーナックルモードでディメションライダーパンチでトドメを差す！

ディケイド「うおおおおおおお！」

デストロイド「うわあ～！」

デストロイドに凄まじいパンチが当たりデストロイは空中に飛ばされながら大爆発を起こし消滅した！

ディケイド「CUE「終わったか～」

こうして長い戦いに決着が付いたのだった。

それから2日後再びオーケストラ公演が開かれ仲間達全員が招かれた。

夏美「全く何で私だけ！」

ユウスケ「まあまあ夏美ちゃんもう済んだ事だし。な！」

海東「そろそろ、かな

響「なんか楽しみだな～」

奏「あつ～出てきたよ」

エレン「土さんかっこいい～」

エレンが大きな声で叫ぶ

全員「静かに！」

エレン「ゴメンなさい～」

M弦太郎「さあいよいよだな！何か楽しみだぜ！」

弦太郎「お前何で俺に憑依するんだよ！」

M弦太郎「しうがね～だろ！俺の見た目がヤバいんだからよ～」

弦太郎「しうがね～な！」

この後士は見事な演奏をした。

」

その後の光写真館への帰り道。

士「やつとこの世界の役目が終わつたな。」

響「ずっとこの世界にいればいいじゃない！」

奏「うん！－いいわね～」

エレン「駄目よ2人とも、士さん達は…」

士「俺達は旅人だ！だからいつまでもこの世界にいる訳に行かない。」

ユウスケ「だけど俺達はいつまでも友達だろ？」

ユウスケは笑いながら話す。

響「そうね。確かにそうかもね」

奏「まだどこかで会えるかもしねしないしね」

エレン「そうね」

士はトイカメラで彼女達を撮る。

士「さあみんな帰るぞ！」

響たち「またね～みんな～」

そして光写真館に付いた士たちは先ほど撮った写真を見ていた。

夏美「この写真は、いいですね～」

その写真には笑顔の響達が前に後ろにプリキュア達が写っていた。

栄次郎「すばらしい写真だね～さあ晩御飯にしようかな。おつとつ」と

栄治郎がこけた瞬間に絵が変わる。

士「おいじいさん大丈夫か！うん？」

モモタロス「おいコレは！－！」

弦太郎「俺の世界だ。」

全員「え～」

次回作に続く？

## 決着と宇宙ギター！（後書き）

いかがでした？フォーゼのパートには最近登場したフォームも追加しました！後ファイナルフォームライブさせてみましたがではまた！

## 最終回の設定（前書き）

最終回のハイダー説明です  
ではじめ

## 最終回での設定

仮面ライダークウガ ライジングアルティメット ゴールドアイ（RUクウガG）

本作のオリジナルフォーム

クウガがプリキュア達の友情の力を受け取り究極変身したクウガの究極形態。

プリキュア達の友情の力の影響で常に体から光のオーラを放つている。

必殺技はライジングアルティメットゴールドキック。

仮面ライダーデストロイド アルティメットモード（デストロイドAM）

アルティメットメモリの力で究極の破壊の力を手に入れたデストロイド最強の姿、見た目は変わらないが凄まじい闇のオーラを常に放っている。

必殺技

ダークネスアルティメットデストロイ

体から凄まじい闇のオーラを放ち敵を破壊するデストロイドAMの最強技

周囲を一瞬で破壊する力がある。

アルティメットメモリ

マッスル ソルジャー デストロイのメモリが合体して誕生した最強かつ究極のメモリ

本作ではデストロイドAMと共に消滅した。

仮面ライダー電王

俺の幻の必殺技パート4！

本作オリジナルであり幻の技が初登場！

基本的には、テンガツシャーネードの剣先を飛ばさないで使用する。  
まず斜めに切り 次に横 そして上から縦に4を描くようにぶつた  
切る技。

## 最終回での設定（後書き）

モモタロス「とこりでよアンタ次回作何作る気だ？」  
次回作は仮面ライダー・キバをメインにしたコラボ作でも作ろうかと思っていますね。

モモタロス「俺様が入ってね～じやねえか入れる～」  
そんな無茶な

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3496w/>

---

仮面ライダーディケイド×スイートプリキュア 新たな出会いと戦い！  
2011年11月11日19時38分発行